金浜小

かかわり合いながら、主体的に表現する子どもの育成

～少人数・複式学級における授業実践を通して～（３年計画の１年次）

校長　夏坂　俊史

１　研究主題について

本校は、「夢に向かって挑戦する元気な子」を教育目標に掲げ、努力目標「かんしゃする子」「ねばりづよい子」「はきはきはなす子」「まなびつづける子」の育成に向けて教育活動を展開している。

昨年度は、「主体的にかかわり、ともに学び合う子の育成」という研究主題で、算数科学習指導において、問いのもたせ方の工夫、自力解決・話合いのさせ方や支援の工夫について取り組んだ。その結果、児童が見通しをもって主体的に問題解決に取り組んだり、対話を通して自分の考えを広げたりできたという成果が見られた。また、本校は少人数のため、朝のスピーチや行事での感想発表、毎時間の授業などで、話す機会がたくさんあり、自分を表現するためには恵まれていると言える。しかし、一人で話すときに小さな声になってしまったり、いつも同じような内容になってしまったりしているのが現状である。

そこで、今年度は、自分の考えや思いをはきはき自信をもって話すことができるようにするために、少人数・複式学級の授業づくりや、対話活動のあり方を工夫することを通して、「かかわり合いながら、主体的に表現する子どもの育成」に取り組んでいきたい。

２　研究のねらい

かかわり合いながら、主体的に表現する子どもの育成を目指して、少人数・複式学級の授業のあり方や、対話活動のあり方の工夫について授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

少人数・複式学級の学習指導において、授業の進め方を工夫し、対話を通し協働的に学ぶことによって、かかわり合いながら、主体的に表現する児童を育成することができると考える。

４　研究内容

(1)　導入から課題設定における教師のはたらきかけの工夫

ア　教師のはたらきかけの工夫（発問、教材や問題の提示の仕方など）

イ　見通し（考え方・方法）のもたせ方の工夫

(2)　対話活動のあり方の工夫

ア　「話し方名人」を基本とした話し方、聞き方、話合いの習慣化

イ　考えを表現する場や話し合う場の設定

ウ　相手意識、目的意識を明確にして自分の思いや考えを伝える力を育てるための手立ての工夫

５　研究の経過

(1)　研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・題材・授業者など
６	７	第１回授業研究（６年） 道徳「『弱い心』をコントロール」　授業者　講師　三角　田鶴子
１０	２５	第２回授業研究（１・２年）要請訪問 国語　１年「じどう車くらべ」 ２年「馬のおもちゃの作り方　おもちゃの作り方をせつめいしよう」 授業者　教諭　後藤　理賀子

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
６	１３	複式担当者研修会（階上町立階上小学校）
１１	２２	プログラミング教育研修　（総合教育センター主任指導主事　大下　洋一氏）

６　研究の成果

(1) 導入から課題設定において、ICT 機器を効果的に使うよう意識したり、教材にしかけを設けたりすることで意欲的に学習に取り組むことができた。

(2) 間接指導時に見通しをもたせるため、教材や教具を工夫することで、意欲を持続させながら、課題解決に取り組むことができた。

(3) 自分の考えをはっきりさせるために考えを書かせたり、異学年に発表する機会を設けたりすることで、自信をもって話すことができるようになった。学習時だけでなく、全校で集まる機会に、「はきはき話す」ことを継続して意識させることで、はっきり話すことができるようになり、またそのことが自信につながり、自己肯定感を高めることができた。

７　研究の課題

(1) 欠学年があり、変則的な複式学級になっている。複式学級の授業の進め方について、県の「へき地・複式教育ハンドブック」を参考に、共通理解しながら授業実践を重ねていく必要がある。

(2) 間接指導時に、自主的に学習が進められるよう、直接指導時の教師のはたらきかけや見通しのもたせ方の工夫についてさらに研究していく必要がある。

(3) 目的意識を明確にして自分の思いや考えを伝える力を育てるための手立ての工夫について、さらに研究していく必要がある。

（記入者　後藤　理賀子）